

# 紫野



2018 Vol.10

びわこ学院大学 広報誌  
びわこ学院大学短期大学部

発行 平成31年1月

## 【巻頭挨拶】

学校法人 滋賀学園

理事長 森 美和子

びわこ学院大学・

びわこ学院大学短期大学部

学 長 賀川 昌明

## 【特別寄稿・客員教授紹介】

学校法人 滋賀学園

学園長・事務局長 森 亘

## 【掲載目次】

《トピックス》サッカー部の創部に向けて／

部・サークル一覧／学生躍動／学科近況／卒業生状況／

地域連携／教職員紹介／研究室訪問／著書紹介／

事務局通信／びわ学NEWS！



写真は、昨年末、大学正門の門柱に法人名ならびに大学名の銘板を取り付けた際に、理事長、学園長、学長と大学の事務スタッフとで記念撮影した時のものです。時差勤務等の都合で、残念ながらスタッフ全員が揃うことはできませんでしたが、日頃のアットホームな雰囲気そのままの写真になりました。





## 新春のご挨拶

学校法人 滋賀学園  
理事長 森 美和子

新年あけましておめでとうございます。  
輝かしい新年を皆様とともに迎えることができましたことを心よりお慶び申し上げます。また、平素よりびわこ学院大学・びわこ学院大学短期大学部に対しまして、ご支援ご協力を賜り、深く感謝申し上げます。早いもので、びわこ学院大学が開設されて今春十年目を迎えました。その前身である滋賀文化短期大学が開学して30年、あっという間の30年でした。この間、短期大学部の変遷は、ライフデザイン学科に児童学コース、介護福祉コース、キャリアデザインコースの三コースを設置しました。さらには、大学附属の認定こども園“あっぷる”の設置、大学教育福祉学部には、子ども学科に加えてスポーツ教育学科を併設するなど、種々の充実を図ってまいりました。今春で短期大学部では、約4100名（27期総数）の卒業生、大学では、約400名（6期総数）の卒業生を輩出し、卒業生の皆さんは、全国津々浦々でご活躍されています。

さて、2020年には、いよいよ東京オリンピック・パラリンピックが、その4年後には、滋賀国体が開催されます。本学においても、現在4部19サークルが活動していますが、スポーツ関係が3つの部と13のサークルを占め、とりわけ駅伝部の活躍には目を見張るものがあります。発足してまだ3年目ですが、先日（平成30年11月17日）丹後で行われた、第80回関西学生対校駅伝競走大会において、並みいる強豪



## 巻頭言

びわこ学院大学・びわこ学院大学短期大学部  
学長 賀川 昌明

本年度は教育福祉学部スポーツ教育学科開設後5年が経過し、新しいステージに向けての取り組みが始まりました。その中で来春卒業予定の第二期生は、見事、公立学校教員採用試験に合格しました。また、開設後約10年を経過した子ども学科においても、来春の卒業予定者は従来の卒業生を大幅に上回る公立学校教員採用試験合格者を出すことができました。さらに、今年度が完成年度の短期大学部ライフデザイン学科児童学コースにおいても順調な滑り出しを示し、初めての卒業生となる第一期生では、近隣保育園・子ども園等から数多くの採用内定を獲得しています。

課外活動においては、既存の陸上部・駅伝部をはじめ、射撃等で目覚ましい活躍が示されました。また、昨年度に続いて参加した「アイデアコンテスト2018」では、本学から2チームが受賞するという快挙が見られました。そして

を抑えて5位、数年後には全日本学生駅伝に出場する勢いで、取り組んでおられ、とても楽しみにしております。また、滋賀県立大学と滋賀中央信用金庫の共催により開催された「君のアイデアが未来をつくる！大学アイデアコンテスト」において、短期大学部の丸山ゼミが、昨年グランプリ（滋賀県知事賞）、本年も引き続き準グランプリ（滋賀中央信用金庫理事長賞）、教育福祉学部子ども学科内藤ゼミが第3位（彦根商工会議所会頭賞）に選ばれ、本学の名前を県内に大きく広めていただきました。大学に関係する者として、たいへん喜ばしい限りです。

小さいながらも地域に深く根ざし、遍く多くの皆様にかわいがっていただいたこの30年間。昨年3月理事会において承認された中長期ビジョン（※）を念頭に、われわれ役員・教職員はその実現に日々努力してまいりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。近況ご報告を兼ね、初春の言葉といたします。

※びわこ学院大学中長期ビジョン 「行きたくなる大学であるために」より抜粋

- ①小規模校の利点を生かし、教育効果の高い教育系大学になる。
- ②湖東地域に愛着をもち、定着する人材を輩出する大学になる。
- ③地域社会への説明責任と教育の質保証を約束する大学になる。
- ④安定した戦力を可能にする強固な財政基盤をもつ大学になる。

運動部の更なる活性化をめざし、現在、サッカー部創設に向けた取り組みがなされているところです。

大学運営においては、学部・短期大学部ともに教員免許法改正に伴う再課程認定申請作業に追われました。現在ではこの作業も無事に終え、2021年度受審予定の日本高等教育評価機構の認証評価に向けて、新たな中期目標・中期計画の策定作業に取り組んでいるところです。近年の大学運営においては教育の質保証が強く求められていますが、これらの実現に向け、我々教職員一同、今まで以上の成果が得られるよう努力を続けていく所存です。

以上、今年度の主な取り組み等を簡単に紹介させていただきましたが、皆様方には今までのご支援に対して心から感謝申し上げますとともに、今後ともより一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



学校法人滋賀学園  
学園長・事務局長 森 亘

## 「創意工夫と不断の努力」 ～駅伝部の躍進に思う～

日本の急速な少子高齢化に伴う18歳人口の激減は大学経営にとって大きな痛手であり、特に、2040年問題を抱えながら、国公立を問わず全ての大学が生き残りをかけて様々な取り組みを進めています。

本学園の設置します『びわこ学院大学・びわこ学院大学短期大学部』におきましても、理事長からのご挨拶（前頁）にありますとおり、「行きたくなる大学」となるべく中長期ビジョンを策定しておりますが、実現するには教職員全員の“創意工夫と不断の努力”が不可欠です。そして、そのことを実際に具現してくれているのが駅伝部の躍進でしょう。

高校時代は無名であった部員たちが、決して万全とはいえない練習環境を物ともせず、吉岡監督の指導の下、目標に向かって日々の練習に創意工夫を凝らし、また、酷暑の夏にも厳寒の冬にも不断の努力を続けた結果、超高校級であっ

## 「客員教授」紹介

本学園は、『滋賀学園中学・高等学校』、『びわこ学院大学・びわこ学院大学 短期大学部』ならびに『びわこ学院大学附属こども園 あっぷる』を設置していますが、高校 野球部の選抜高等学校野球大会（通称：春の甲子園）、陸上部の全国高等学校駅伝競走大会（通称：都大路）、また前掲のとおり、大学 駅伝部の丹後大学駅伝など、ここ数年、生徒や学生諸君のスポーツ分野における活躍は目覚ましく、この勢いをさらに加速すべく、昨年、松山 吉之 氏（サッカー元日本代表）と林 敏之 氏（ラグビー元日本代表）を大学の客員教授として招聘しました。

お二人とも現役時代はトップアスリートとして活躍され、また引退後は、スポーツを通じた青少年育成等に尽力されており、強力な助っ人として本学園のさらなる発展に貢献いただけるものと確信しています。

### 松山 吉之（まつやま よしゆき）氏



京都府出身の元プロサッカー選手。山城高等学校卒業後、進学した早稲田大学在籍時から日本代表として活躍。大学卒業後の古河電工を皮切りに、Jリーグ発足後は、ガンバ大阪や京都パープルサンガでプロ選手としてプレーし1977年に現役を引退。

その後、京都パープルサンガ、名古屋グランパスエイト、ガンバ大阪でフロントスタッフやコーチとしてチームの強化や指導にあたり、現在は家業である『株式会社 松山閣』の代表取締役社長として経営手腕を揮いながら、同時に『NPO法人 松山T.F.C』の理事長として、サッカーを通して子供たちの夢の実現や社会への貢献活動に尽力。

### 林 敏之（はやし としゆき）氏



徳島県出身の元ラグビー選手。城北高等学校卒業後、同志社大学を経て神戸製鋼に入社しチームの7年連続日本一に貢献。大学在籍中から通算13年間、日本代表を務め、日本のラグビー界において“最も世界に通用した選手”として活躍。

1996年の現役引退後は、心のふれあいを大切にした感性教育の道を志し『NPO法人 ヒーローズ』を立ち上げ、会長としてラグビーの指導はもとより講演や執筆等を通じて青少年の健全育成を図るとともに、学術や文化あるいは芸術やスポーツ等、多方面において積極的な社会（教育）活動を展開し、それぞれの分野のさらなる発展に尽力。



びわこ学院大学にサッカー部が誕生します！

サッカー部監督 時岡 宏昌



2019年4月、びわこ学院大学に新たにサッカー部を立ち上げます。創部するサッカー部では、「心を育てるスポーツ」をコンセプトに、勝利を追求するだけでなく、サッカーの楽しさやすばらしさを多くの人々と共有し、サッカーと大学生活を両立させながら社会で通用できる自立した人材を育成できるように取り組んでいきたいと考えています。

また、サッカー選手としてトレーニングやゲームに励むだけでなく、将来指導者をめざす方には早い段階で実際の指導現場に出られるようなサポートも行っていきます。このような指導者養成のためのサポートは、少人数教育が特長の本学ならではの試みで、部員一人ひとりのニーズに合わせた活動を支援していきます。

本学で夢の実現をめざしたい学生や、サッカーに関わり続けたいと考えている学生をお待ちしております！

スタッフ紹介

**ゼネラルマネージャー／松山 吉之**  
競技歴：元日本代表、山城高校～早稲田大学～古河電工～ガンバ大阪～京都パープルサンガ  
その他：Jリーグマッチコミッショナー、JFA公認指導者ライセンスA級ジェネラル

**監督／時岡 宏昌**  
競技歴：帝京高校～鹿屋体育大学～コンサドーレ札幌 など  
その他：JFA公認指導者ライセンスS級、滋賀県サッカー協会指導者養成インストラクター

**コーチ／川口 諒**  
競技歴：海星高校～広島大学  
その他：びわこ学院大学スポーツ教育学科助教  
体育科教育学専門



大学の人工芝グラウンドで高校生対象の練習会も行っています。

平成30年度 部・サークル一覧

学生支援課

本学の課外活動も年々活発になっています。平成30年度は、4部19サークルが活動しています。とりわけ、陸上競技部と駅伝部の活躍は全国的な広がりを見せてきました。また、和太鼓部やダンスサークル、広報・ボランティアサークルなどは、地域のイベントに積極的に参加し好評を得ていますし、地域から積極的なお誘いを受けることも多くなってきました。

練習場所は、本学の施設のほかに、周囲に広がる布引運動公園の諸施設を利用させていただき、レベルの高い練習もできるようになっています。来年度はサッカー部も発足し、ますます活動の幅が広がります。

今後の本学諸団体の活躍にご期待ください。

平成30年度 部・サークル一覧表

| NO | 団体名              | 部員数 |
|----|------------------|-----|
| 1  | 陸上競技部            | 23  |
| 2  | 駅伝部              | 26  |
| 3  | 和太鼓部             | 22  |
| 4  | バスケットボール部        | 29  |
| 5  | ダンスサークル ^ LEAP ^ | 24  |
| 6  | ソフトテニスサークル       | 14  |
| 7  | バドミントンサークル       | 19  |
| 8  | ゴルフサークル          | 5   |
| 9  | バレーボールサークル       | 10  |
| 10 | 卓球サークル           | 6   |
| 11 | 弓道サークル           | 9   |
| 12 | 女子サッカーサークル       | 10  |

| NO | 団体名               | 部員数 |
|----|-------------------|-----|
| 13 | 男子サッカーサークル        | 5   |
| 14 | スポーツサークル          | 8   |
| 15 | カバディサークル          | 6   |
| 16 | フィギアスケートサークル      | 6   |
| 17 | 茶道サークル            | 7   |
| 18 | 吹奏楽サークル           | 14  |
| 19 | 合唱サークル            | 14  |
| 20 | 軽音楽サークル           | 14  |
| 21 | 広報・ボランティアサークル     | 60  |
| 22 | 子どもボランティアサークルくれよん | 5   |
| 23 | 水泳サークル            | 13  |

アイデアコンテストでW受賞！

平成30年9月7日（金）、彦根ビューホテル（彦根市）を会場に開催された「アイデアコンテスト2018」において、丸山俊明クラス（短期大学部1年生）が行った『「天台星回廊～金剛界9星と胎藏界12星～」琵琶湖を囲む天台寺院をツアーバスでまわるびわイチ+的観光プランの提案』が滋賀中央信用金庫理事長賞（参加全12団体中2位）を受賞しました。また、内藤紀代子ゼミ（子ども学科4年生）が行った『「滋賀に住む若者の将来を描くプレコンセプションケアの開発」将来の妊娠を考え、女性やカップルが自分たちの生活や健康に向き合うための提案』が彦根商工会議所会頭賞（同3位）を受賞しました。本学としてはうれしいW受賞となりました。

「アイデアコンテスト」は、滋賀県立大学（滋賀県彦根市）を代表校として取り組んでいる「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」の一環です。滋賀中央信用金庫との共催で開催されるもので、参加大学の学生が

2人そろって国体へ（陸上競技部）

本学陸上競技部の清水麻衣さん（4年生）と荻野海翔君（4年生）がそろって、10月に福井県で開催された第73回国民体育大会に出場しました。清水さんは女子円盤投、荻野君は男子走高跳の選手で、高校時代から全国大会等で活躍し、本学入学後も多くの大会で上位入賞を果たし期待に応えてくれました。

今回の陸上競技は、昨年、彦根市出身の桐生祥秀選手が日本学生対校選手権大会において、100m走で日本人として

創部3年目の飛躍

昨年11月、関西ナンバーワンを決める丹後大学駅伝（関西学生対校駅伝）が開催され駅伝部は創部3年目、3度目の丹後路に『4位』という目標を掲げ挑みました。

一昨年は9位とシード権を獲得しましたが最終区8区で襷が繋がらず繰り上げスタート。上位チームとの実力の差を見せつけられ悔しい思いをしましたが、今年は1区9位と1年生の杉岡洸樹（子ども1年）が順調なすべり出し。

2区の主将 大崎陸斗（スポーツ3年）に襷を繋ぐと本領発揮とばかりに順位を上げ7区に襷が渡った時はエース今西洸斗（スポーツ3年）が全日本大学駅伝優勝経験もある強豪京都産業大学を抜き3位まで順位を押し上げるなど、大いに存在感を示してくれました。



1区 杉岡 2区 大崎 3区 長谷川 4区 湯川 5区 小松原 6区 今西 7区 井上 8区 岩本

外部連携研究支援課

テーマに沿って事業計画を提案し、県内の企業や経済団体による審査が行われます。参加大学は本学のほか、滋賀大学、滋賀県立大学、成安造形大学、聖泉大学、びわこ成蹊スポーツ大学の6大学となっています。



学生支援課

初めて10秒の壁を破った「福井県営陸上競技場」（愛称「9.98スタジアム」）を会場として行われました。陸上競技の選手にとっては、あこがれの競技場ともいえるでしょう。清水選手は47m55、荻野選手は2m10を記録し、それぞれ5位、11位という好成績を収めました。

本学を卒業した後も、大きな目標を掲げて頑張っていたきたいと思います。今後のさらなる活躍を期待します。

駅伝部 監督 吉岡 幹裕



結果は5位。目標の4位にはあと僅か届きませんでしたが来年へ向け自信と新たな可能性を感じた結果となりました。

来年は創部4年目を迎え全学年が揃う集大成の1年となります。

高校時代は各府県レベルで目立った実績もない無名選手たちが夢を抱きびわこ学院大学へ進学し、地道なトレーニングを重ね創部3年という僅かな期間で飛躍的な成長を遂げ、可能性と夢を拓けてくれています。

来年の『全日本大学駅伝出場』と『丹後大学駅伝優勝』を目標に据えて走り出した駅伝部によりたくさんのご声援を頂けたらと思います。



## 子ども学科の近況

本年度教員等採用試験合格者状況（12月15日現在）をお知らせいたします。

小学校教諭17名、養護教諭4名、公立幼稚園・保育士11名が合格しました！！

子ども学科が創設されて10年目の今年、これまでで最も多くの合格者を輩出し、学科の教員はもとより、全学あげて喜びに沸いています。

前学科長の仁木 幸男教授がご退職の際、合格者数20名が悲願とおっしゃっていましたが、ついに本年度はその壁を超え、32名という快挙を達成することができました。幼稚園・保育士については、まだ結果の出ていない市町もありますので、更に合格者数が増える予定です。これは、学生本人の頑張り、教職員のサポート、保護者の方の支えが相乗効果を発揮した結果であり、学科長として誠に嬉しい限りです。

今後に向けて、在学生の皆さんには「絶対〇〇になる！」という強い想いを持ち、1年生の時から着実に勉強することと、同じ夢を持つ仲間と一緒に採用試験に立ち向かって

## スポーツ教育学科の近況

スポーツ教育学科では、昨年3月に米川直樹先生がご退職され、4月に祐末ひとみ先生（地域スポーツ行政論、スポーツ文化論等）、川口 諒先生（中等教科教育法保健体育、サッカー等）がご着任されました。

本学科の活動は、まず新入生を含む全員が参加するオリエンテーリングを行いました。大学周辺にある名所旧跡を



BGU運動会

班ごとに駆け巡り交流を深めることができ有意義なスタートとなりました。

学修活動では、スポーツ教育基礎演習で、1年生は能登川南小学校親子フォー

## ライフデザイン学科の近況

平素はライフデザイン学科（短期大学部）にご協力をたまわりまして、誠にありがとうございます。本学科3コースのうち、児童学コースは来春初の卒業生をおくりだしますが、現時点で5人の正規保育職員の採用が内定し、職場での戦力となることが期待されます。1年生も初の実習に備えて緊張の毎日です。介護コースでは、2年生は国家試験をひかえて猛勉強中です。昨年は90%をこえる合格で、今年も負けないう教員一丸となって指導に取り組んでいます。1年生も春学期のうちに高齢者住宅の改築にアドバイスできる福祉住環境コーディネーターの検定試験にチャレンジし、のべ14名の合格者を出すことができました。キャリアデザインコースでは、2年生の内定が続く中、1年生の多くが滋賀県インターンシップ推進協議会のインターン

学科長 平松 恵子

いくという大学全体の風土を醸成してほしいと思います。

次に子ども学科創設以来の継続した取り組みである「わくわくフェスタ」を紹介いたします。この取り組みは、学生が子どもの遊びを計画し、提供することで企画力、実践力や人間力を培っていくというものです。学生たちは、講義や演習で学んだ内容を保育・教育の実践に活かす機会として、「保育所保育指針」、「幼稚園教育要領」、「小学校学習指導要領」を踏まえた上で乳児から幼児、児童の発達過程の特徴を考慮した遊びを提供します。3・4年生はS Aとして支援します。

11月3日に開催された大学祭（紅葉賀祭）では秋晴れの好天の中、1・2年生139名が7つのブースを提供し、多くの子どもたちや保護者に参加していただきました。事前の企画・準備、当日の運営、終了後の反省を通して、より一層教師や保育士などの仕事にやりがいを感じる学生が増えました。



わくわくフェスタ

学科長 村山 勤治

ラム、東近江市スポーツ少年団体力測定等、2年生は湖東・建部と奥永源寺での体力測定と健康教室等を地域の方々のご協力を得て実施しました。また、学園祭前日のBGU運動会「びわりんピック2018 学科をこえた友情」で、新種目の考案や全員リレー等の企画と運営に携わりました。3年生は総合演習で、コムスポようかいちの主催事業のいきいきコムスポBGUキッズにゼミごとに参加し、指導者的役割を果たしました。これらは、学内で理論と実技を学び、地域で実践力を高めていく本学科特有の学び方であると思います。

最後に、4年生は2名が教員採用試験（滋賀県・横浜市）に合格し、他の多くは企業への就職が決まっています。

学科長 丸山 俊明

シップを準備中です。また滋賀県立大学・滋賀中央信用金庫共催COC+アイデアコンテスト（県内6大学12チーム参加）では1年生2名が準グランプリ（滋賀中央信用金庫理事長賞）を受賞。昨年のグランプリに続く快挙となり、プレゼンスキルアップへの取り組みの正しさを裏付けました。これからもライフデザイン学科教職員一同、指導にまい進してまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



アイデアコンテスト2018 準グランプリ

## 教育福祉学部6期生および短期大学部8期生の進路決定状況等について

進路・就職支援課長 藤居 毅

今春、大学の教育福祉学部では、こども学科の6期生、スポーツ教育学科の1期生が卒業しました。学生自身の努力と本学での4年間にわたる教育、「基礎学力養成講座」、「採用試験対策講座」などの講座の実施により、難関の採用試験で健闘するなど、就職内定率は5年連続で100%を達成できました。

子ども学科の採用状況は、公立小学校に2名、幼稚園・こども園・保育所では、公立に10名、私立に10名が正規採用されました。また、公私立学校・園に17名が臨時採用となりました。また、高齢者福祉施設や障がい者支援施設等の福祉施設には6名が、一般企業に18名が就職しました。就職者の73%が教職・福祉関係に就職したことになります。また、初めて卒業生を出したスポーツ教育学科では、公務員（滋賀県警察本部）に1名が正規採用され、特別支援学校に2名、滋賀県スポーツ協会に1名が臨時採用となりました。大学院に1名が進学し、10名が一般企業に就職しました。

短期大学部ライフデザイン学科では、8期生が卒業しま

## 2018（平成30）年3月卒業者の教員免許・資格取得状況等について 教務課

| 教育福祉学部の免許・資格取得状況  |     |       |       |      |                   |                     |       | 短期大学部の資格取得状況          |     |       |                 |
|-------------------|-----|-------|-------|------|-------------------|---------------------|-------|-----------------------|-----|-------|-----------------|
| 免許・資格<br>コース      | 卒業者 | 小学校教諭 | 幼稚園教諭 | 養護教諭 | 中学・高校教諭<br>(保健体育) | 特別支援学校教諭<br>(知・肢・病) | 保育士資格 | 免許・資格<br>コース          | 卒業者 | 情報処理士 | 介護福祉士           |
| 子ども学科<br>子ども教育コース | 31  | 20    | 12    | 9    | －                 | 3                   | 5     | 地域政策コース<br>ライフデザインコース | 25  | 8     | －               |
| 子ども学科<br>子ども福祉コース | 35  | 0     | 27    | 2    | －                 | －                   | 27    | 介護福祉士養成コース            | 30  | －     | 28 <sup>*</sup> |
| スポーツ教育学科          | 16  | －     | －     | －    | 4                 | 3                   | －     | 計                     | 55  | 8     | 28              |
| 計                 | 82  | 20    | 39    | 11   | 4                 | 6                   | 32    |                       |     |       |                 |

- 子ども学科 卒業生66名中、いずれかの免許・資格を取得した学生は59名（89.4%）で、その内2種類以上の複数免許・資格取得者は41名（62.1%）である。（内、7名が3種類の免許・資格を取得した。）
- スポーツ教育学科 卒業生16名中、いずれかの免許を取

得した学生は5名（31.3%）で、その内2名が中学、高校、特別支援の3種類の免許を取得した。

※介護福祉士の国家試験義務化が決まり、2018（平成30）年3月卒業生より適用されている。国家試験の合格者が28名である。（2022（平成34）年3月卒業生までは、国家試験に不合格であっても、5年間連続して勤務することで資格取得が可能である。）

## 教育福祉学部 卒業研究発表会について

教育福祉学部（子ども学科・スポーツ教育学科）では、4年次に卒業に関する課題（論文・制作・演奏・学びレポート等）への取り組みが必須となっており、大学での学びの集大成と位置付けています。

4年次初めにテーマを決定し、ゼミ担当教員の指導のもと、長い年月をかけて研究活動等に取り組みます。自身の興味・問題意識に基づき定めたテーマを深く掘り下げ、学びの復習、文献購読、先行研究調査、アンケート、データ分析といった学びを通じて自分なりの考えをまとめ、主張を行う卒業課題への取り組みには、卒業後の社会生活で役立つ要素が多く含まれています。

2月上旬には、学科別に卒業研究発表会が実施され、4年生全員が発表の機会を持ちます。4年間の学習で最も時

間をかけて取り組んだ成果の発表に臨む学生達、発表に真剣に耳を傾け質問する学生、卒業研究発表会は熱気に溢れた学習の場となっています。

苦しみながらも時間をかけて取り組んだ学生ほど成果が表われ、卒業前の最終課題をやり遂げた学生からは、満足感・充実感が伝わってきます。卒業課題への取り組みを通して身につけたタフさを、社会人として発揮してくれることを願っています。



卒業研究発表会の様子



教育職員免許法認定講習

本学は、文部科学省の「特別支援教育に関する教職員等の資質向上事業（指導者養成講習会）」の委託を受け、特別支援学校並びにこども園、幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び中等教育学校の先生方を対象に、特別支援学校教諭第一種および二種免許状を取得するために必要な単位の修得、併せてその資質の保持と向上を図ることを目的として、平成27年度より教育職員免許法認定講習を開催しました。平成30年度も8月の3講座および12月の2講座に、延べ420名の先生方を受け入れ、研修の場として活用いただきました。

文部科学省の事業受託が前提になりますが、平成31年度も継続して講習を実施する予定をしており、決定次第、詳細を大学のホームページにて公表させていただくこととしています。（問合せ先：外部連携研究支援課）

教員免許状更新講習

第8回目となる本学の教員免許状更新講習（必修2講座、選択必修4講座、選択20講座）は7月28日（土）を初日に8月21日（火）までの間の11日間にかけて開催しました。

本年度と平成31年度は文部科学省が指摘したように、受講対象者が例年の約2倍になることから、本学ではこれまでと比較して1.8倍まで定員受け入れ枠を増大させました。結果、県内外から都合2,300名を超える先生方に受講いただき、9月下旬、修了・履修認定を行いました。講習終了時にお寄せいただいた評価やご意見、ご提言をしっかりと受け止め、次年度に向け、より良い講習の準備に努めてまいります。（問い合わせ先：外部連携研究支援課）

幼稚園教諭免許取得特例講座・保育士資格取得特例講座

認定こども園法の改正により、2015年4月より「幼保連携型認定こども園」が創設され、幼稚園教諭及び保育士資格の両方を持つ「保育教諭」の配置が原則化されました。これに伴い、保育士資格を持たない幼稚園教諭と幼稚園教諭免許を持たない保育士の方を対象として、資格・免許を取得するための必要単位が軽減される特例措置が設けられました。本学では、この特例措置に対応する講座として今年度で第3回（年）目となる、「幼稚園教諭免許取得特例講座（3科目）」、「保育士資格取得特例講座（2科目）」を開講しましたところ、それぞれ約200名、約50名の方に受講いただきました。（問い合わせ先：外部連携研究支援課）

幼稚園教諭免許取得特例講座

| No. | 日程     | 曜日 | 本講座における開設科目名 |
|-----|--------|----|--------------|
| 1   | 6月16日  | 土  | 教育課程論        |
|     | 6月17日  | 日  |              |
| 2   | 6月23日  | 土  | 幼児理解論        |
|     | 6月24日  | 日  |              |
| 3   | 11月17日 | 土  | 教育行政・制度論     |
|     | 11月18日 | 日  |              |
|     | 11月24日 | 土  |              |
|     | 11月25日 | 日  |              |

保育士資格取得特例講座

| No. | 日程     | 曜日 | 特例教科目に対応する告示に定める教科目 |
|-----|--------|----|---------------------|
| 1   | 6月16日  | 土  | 保健と食と栄養（子どもの食と栄養）   |
|     | 6月23日  | 土  |                     |
| 2   | 6月17日  | 日  | 保健と食と栄養（子どもの食と栄養）   |
|     | 6月24日  | 日  |                     |
| 3   | 11月17日 | 土  | 福祉と養護（社会福祉）         |
|     | 11月18日 | 日  |                     |
|     | 11月24日 | 土  |                     |
|     | 11月25日 | 日  |                     |

外部連携研究支援課

平成30年度 びわこ学院大学 免許法認定講習開設科目一覧

| No. | 日程     | 曜日 | 開設科目名                   |
|-----|--------|----|-------------------------|
| 1   | 12月25日 | 火  | 特別支援教育論（H30認定講習）        |
|     | 12月26日 | 水  |                         |
| 2   | 8月 3日  | 土  | 聴覚障害者の心理・生理・病理（H30認定講習） |
|     | 8月 4日  | 日  |                         |
| 3   | 8月25日  | 土  | 視覚障害者の心理・生理・病理（H30認定講習） |
|     | 8月26日  | 日  |                         |
| 4   | 8月18日  | 土  | 知的障害者教育総論（H30認定講習）      |
|     | 8月19日  | 日  |                         |
| 5   | 12月22日 | 土  | 重複障害者の心理・生理・病理（H30認定講習） |
|     | 12月23日 | 日  |                         |

外部連携研究支援課

平成30年度 教員免許状更新講習概要

| 講習区分 | 日程    | 曜日 | 講習名                                                                     |
|------|-------|----|-------------------------------------------------------------------------|
| 必修   | 7月28日 | 土  | 教育の最新事情                                                                 |
|      | 8月20日 | 月  | 教育の最新事情                                                                 |
| 選択必修 | 7月29日 | 日  | 大規模災害時における園・学校の危機管理<br>国際理解及び異文化理解                                      |
|      | 8月 6日 | 月  | 大規模災害時における園・学校の危機管理<br>国際理解及び異文化理解                                      |
| 選択   | 8月 7日 | 火  | 子どものメンタルヘルスの理解とその対応<br>幼児音楽<br>領域「言葉」における実践法                            |
|      | 8月 9日 | 木  | 発達障害／インクルーシブ教育<br>現代的な健康課題を抱える子どもたちへの支援<br>トレーニング（運動）の理論と実践             |
|      | 8月10日 | 金  | 発達障害／自閉症の理解と支援<br>スポーツとこころ／こころとからだ<br>『生活』教科に民家研究の成果を応用する               |
|      | 8月12日 | 日  | 学校教育と地域が協働で子どもを育てる<br>～コミュニティ・スクール及び地域学校協働活動のこれから～<br>運動遊び指導の実践力        |
|      | 8月13日 | 月  | 特別支援教育／子どもとの関わり方の工夫<br>造形表現<br>AI（人工知能）と共存する時代の教科教育 ―理科教育を例にして―         |
|      | 8月16日 | 木  | 最近の若者を取り巻く問題とレジリエンス（こころの回復力）サポートについて<br>子どもの造形活動<br>学校教育における武道（剣道）が担うもの |
|      | 8月21日 | 火  | 子どもの貧困の理解と支援<br>幼児音楽<br>小学校の体育事業におけるボール運動の授業づくり<br>―運動の苦手な子どもも楽しめる体育授業― |
|      |       |    |                                                                         |
|      |       |    |                                                                         |
|      |       |    |                                                                         |
|      |       |    |                                                                         |
|      |       |    |                                                                         |
|      |       |    |                                                                         |
|      |       |    |                                                                         |

公開講座

今年度は、11月17日（土）、12月1日（土）および12月15日（土）の3日間、4講座の開催を計画、催行最低員数に満たなかった1講座を除く3講座に約50名の方の受講をいただきました。

3日間の講座では、受講者は自分自身でモノを創造する楽しさと文化的な活動に参加する喜びを感じておられました。また、受講者の皆さんの間には和気あいあいとした雰囲気が感じられました。

次年度以降も「地域の方々の知識とくらしがより一層豊かになる」ことを公開講座の根っこに据え、地域の方々の学習意欲を的確に受け止め、より多くの方に活用いただき、持続可能な地域のくらしに役立つ講座の開設に努めてまいります。（問い合わせ先：外部連携研究支援課）

公開講座

| No. | 日程     | 曜日 | 講習名                         |
|-----|--------|----|-----------------------------|
| 1   | 11月17日 | 土  | 水餃子作り体験から見る日本と中国の食文化と異文化理解  |
| 2   | 11月17日 | 土  | 和歌で考える他人とのつながり～本居 宣長を事例として～ |
| 3   | 12月 1日 | 土  | 世界に一つしかないマイバックづくり           |
| 4   | 12月15日 | 土  | 親子で楽しむクリスマスカードづくり           |

高大連携

高大連携とは、文字通り高校と大学が連携し、高校生に大学レベルの教育に触れる機会を広く提供し、大学で学ぶ意欲を高校生に持たせるなどの取り組みです。教育委員会や高等学校が大学と協定を結び、高校生の大学等における学修を、学校外における学修として高等学校の単位に認定することも可能となっています。高大連携は大学の地域貢献の代表的な取り組みの一つとなっており、大学が地域に対して門戸を開いていくことは、専門教育の普及にも繋がっていきます。

近年は、明確な目的意識を持たず、必要な勉強をしないまま大学に入学して意欲を失うなど、自己の興味・関心と大学の教育・研究内容とのミスマッチが生じる事例が多く指摘されています。大学が高校との交流を通じ、あらかじめ高校生に大学入学後に必要とされる知識・能力等について指導することができれば、このようなミスマッチの解消にも有効になり、大学が標榜している教育の



平成30年度滋賀県立高等学校の生徒を対象とする連続講座（滋賀県教育委員会 主催） 入試広報課

滋賀県教育委員会主催のもと、滋賀県立高等学校の生徒を対象とした連続講座を7月23日と24日の二日にわたり今年度も開講しました。

高校から大学への「学びの接続」、また「キャリア教育」の取り組みとして実施し、滋賀県内の公立高校のみなさんに、大学での学びに触れる機会を提供することができました。

| 講座 | 分野          | 講座タイトル                    | 担当教員      |
|----|-------------|---------------------------|-----------|
| 1  | 教育分野        | 世界の学校を通して見る日本の「隠れたカリキュラム」 | 白銀 研五 講師  |
| 2  | 幼稚園教諭・保育士分野 | 目がキラキラ、心ドキドキ 笑顔がいっぱい      | 高橋 容子 講師  |
| 3  | 福祉分野        | 介護福祉士や社会福祉士ってどんな仕事をしているの？ | 片山 弘紀 准教授 |

外部連携研究支援課



入試広報課

趣旨に沿う人材を早期の段階で育成できるメリットもあります。

高等学校にとっては、大学による特別講座等の機会を通じて、生徒に早期に進路選択の材料を与える絶好の機会となるだけでなく、教員にとっても大学教員との相互交流の機会が生まれ、高度な教育内容に触れるとともに、大学での教育・研究の情報、入試情報等を知ることができるなど大きなメリットがあります。

本学でも、特定高校との連携講座、滋賀県立高等学校生徒を対象とする大学連続講座、プレカレッジ（出前授業、出前講義）、高校の学びへの参画（課題研究発表会への出席）、大学見学（バス見学・模擬授業）など様々な取り組みを行っています。今後も地域に根差した大学として、「高大連携事業」を積極的に進めていきたいと考えております。





## 教職員紹介

教育福祉学部子ども学科

●教員…①氏名・職名 ②研究分野 ③主な担当科目 ④自己PR  
●新規職員…①氏名・職名 ②所属部課 ③主な担当業務 ④自己PR

- ①平松 恵子 (学部長・学科長・教授)  
②養護学、学校保健学、健康教育  
③養護概説、教職実践演習 (養護)  
④人の話を聴くことと発する言葉を大切にしています。毎日、学生を始め様々な人と会話をしますが、自分自身の気持ちが落ち着いてゆったりとしているばかりではありません。忙しいとき、落ち込んでるとき、イライラしているときなど様々な感情に支配されているときもありますが、それらの感情は一旦横に置き、まずは相手の話すことを聴き、ニーズをくみ取ったうえで、相手の心に寄り添うような対応をすること、発する言葉を大切にするように心がけています。が、いまだ修行中の身であり、戒めとして以下の文言を反芻することしばしばです。  
たった一言が 人の心を傷つける たった一言が 人の心をあたためる



- ①奥田 愛子 (教授)  
②スポーツ心理学・身体教育学  
③子どもと健康、身体表現、子どもと運動  
④最近、何度かウィリアム・ウォード (アメリカの教育者) の言葉を目にする機会がありました。“平凡な教師は言って聞かせる。良い教師は説明する。優秀な教師はやってみせる。しかし、最高の教師は子どもの心に火をつける。”果たして私は学生の心に火をつけることができているのか…答えは否!?それでも、卒業後もずっと“灯”の1つにはなっていないか…と、思っています。



- ①近藤 文里 (教授)  
②教育心理学、教育相談論、障害児心理学  
③学校教育心理学、教育相談論、東近江の地域学  
④外部連携研究センター長の仕事を仰せつかり、その仕事の多様さに驚いております。また、先生方には公開講座やいろいろな講習会で講師として大変にお世話になっております。今後は先生方の個々の研究の特色を地元のニーズにどのようにいかしていくかについて考え、実践することは大切な課題だと思っております。



- ①内藤 紀代子 (教授)  
②育成期看護学、ウィメンズヘルス、保健衛生学、思春期教育など  
③基礎看護学、看護技術学、救急医学概論、救急処置法、教育実践演習など  
④これまで、滋賀県や東近江市、地域と連携し「若者の生きる力を育む教育者育成事業」を本大学の有志の学生とともに継続して行ってきました(COC+やライフプランニングプログラム・モデル構築事業等)。今年度は、「若者が描くプレコンセプションケアの開発」として事業を発展させました。この取り組みが、大学によるアイデアコンテストで入賞し、担当学生さんとともに喜びを共有することができました。これからも地域貢献と本学の学生皆様が達成感を持てるような活動を行っていくように励んでまいります。



- ①片山 弘紀 (准教授)  
②高齢者福祉、社会福祉援助技術、エンカウンター  
③社会福祉援助技術論  
④社会福祉援助技術のあり方に関心を持ち、とりわけ、自己理解や他者理解を深めるために必要なトレーニングとは何かを研究しています。また、エンカウンター活動に取り組み日々、傾聴について探究をしています。趣味は、歴史的な建造物のあるところを歩いてまわること。もともと茶道に興味があった関係で茶室や庭園をみてまわったり、寺社仏閣の仏像をみたりすることが好きです。また、訪れる先々の和菓子を探すのも楽しみの一つで、季節をデザインした凝った和菓子に出会うと、とても幸せな気持ちになります。これからもよろしく願いいたします。



- ①岩崎 信子 (教授) **新任**  
②健康教育、学校保健  
③学校保健論、健康相談論等  
④1回生のクラスや3回生のゼミ生と「養護教諭に必要な力」について、楽しく学んでいます。時には厳しい指導をすることもありますが、これも現場に出て困らないようにと考えてのこと…。また、昨年は東近江市内の養護教諭の先生方と今年は市教育委員会(野洲市、近江八幡市、東近江市)の学校保健担当の指導主事の先生方と学生が共に学びあう研修会を開催しました。「養護教諭のことならびわ学へ」と皆さんに認識していただけるよう、今後も様々なことに取組んでいきたいと考えています。



- ①烏野 猛 (教授)  
②社会保障法、危機管理論  
③社会保障論、日本国憲法 等  
④この夏は、西日本を中心とした大規模災害で、防災についての感覚が変わったのではないのでしょうか?非常時の「非」がとれ、常時、この時期にいつも来襲するもの、という発想が求められているように思えてなりません。これからも、防災含めた危機管理の研究を進めていきたいと思っています。



- ①新屋 久幸 (教授)  
②医学一般、医学・養護・介護教育  
③医学概論、解剖生理学、こころとからだのしくみの基礎A  
④「おもしろ、おかしく、生涯現役」を目指し、いろいろ動いています。子どもから終活、予防医学から先端〜緩和医療、個人から地域まで幅広い健康増進、ヘルスケアの実践を模索中。働き方改革、登山医学、旅行医学の実践実習もかね、トレッキング〜登山を趣味としています。綿向山、伊吹山から南・北アルプス、海外まで。また、本学駅伝部の活躍に刺激を受け、ランニングも再開いたしました。まだまだこれから、伸びしろありと思っています。好奇心を忘れず、学生とともに、みなさまとともに、学び、歩み、登っていきたくと思っています。



- ①パン ジュイン (教授)  
②社会人類学、映像人類学  
③国際文化論、地域社会学、コミュニケーション中国語  
④現在「びわ学地域調査プロジェクトチーム」を結成し、学生と一緒に東近江市内にある13の近江鉄道駅をフィールドワーク調査し、地域の歴史的・文化的資源を掘り起こす作業を通して、近江鉄道を利用した地域の活性化について模索しています。



- ①箱家 勝規 (准教授) **新任**  
②理科教育、ものづくり教育  
③教科教育法(理科)、生徒指導論  
④3回生のゼミ生による「おもしろ実験教室」や「ものづくり体験教室」を大津市科学館で定期的に開催しています。参加した子どもたちが目を丸くして興味深くのぞき込んだり、笑顔いっぱいになる姿は、学生にとって大きな自信となっています。学生に科学のおもしろさや子どもたちに伝える喜びを味わってほしいと願っています。



- ①深田 直宏 (准教授) **新任**  
②体育科教育学  
③教科教育法体育、体育実技  
④主に学習指導要領に示された体育科の指導内容の適切性について研究を進めています。また、それと同時に、小学校現場で体育指導が苦手な先生が利用できる体育授業プログラムの開発を進めています。地域の先生方に活用して頂けるような取り組みをしていきたいと思っています。また、本学の学生は、学年が上がるに従い立派に成長していると感じました。そんな学生さんたちが、希望の進路に進めるようにしっかりサポートしていきたいと思っています。



- ①内山 育子 (講師)  
②大人の音痴矯正  
③子どもと音楽・子どもと表現  
④歌を聴いてもらうことで、少しでも元気になってもらえるように、また音楽に興味をもってもらえるように演奏活動を継続しています。小学校での音楽鑑賞公演も行っております。(歌手の特権は子ども達のキラキラした顔を見ながら歌えることです)。また、ゼミ、サークルを引き連れ押し売り!?コンサートも実施しております。ご興味のある方はご遠慮なくご依頼ください。人の前で発表することは、学生にとってとても大きな糧を得ることになります。そして多くの人の笑顔を引き出してくれます。心の栄養にいかがですか。



- ①白銀 研五 (講師) **新任**  
②比較教育学  
③教育課程論、教育方法・技術論  
④海外の教育制度について主に特別な教育的ニーズをもつ子どもに焦点をあてて研究を行っています。研究上の主な関心は社会的包摂です。差別や偏見、貧困等を扱いますが、こういった問題は海外であっても日本と共通している部分、関連している事柄があります。また教育をめぐる制度や方法においてこういった問題は意識しなければ見えてこないと考えます。そういったことから、多角的な視点で社会的包摂の問題に取り組み、学生たちとともに身近な問題に結びつけながら考えていけたらと思います。同時に海外の様々な制度・実践を知ること、そういった営みを支える文化や風土にふれる機会を創っていきたくと思っています。



- ①渡辺 雅幸 (講師) **新任**  
②比較教育学、教育制度学。特にインドの教育制度に関する研究  
③教職入門、子ども教育学概論、教育行政・制度論など  
④滋賀県での暮らしは初めてですが、ふらっと散歩することや食べることが好きで、近江という自然豊かな環境やそこで育ったおいしい食材の数々に日々癒されています。なお、愛知県名古屋市出身なのですが、赤味噌と赤こんにやくによる愛知と滋賀の「赤・赤」名産コラボレーションがお気に入りです。これからも学生のみなさんとともにさまざまなことを学んでいきたいと考えておりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしく願い申し上げます。



- ①茶谷 不二雄 (課長補佐)  
②学生部 学生支援課  
③学生会、部・サークル活動、奨学金、通学など、学生のみなさんが充実した大学生活や活動ができるよう支援する仕事  
④趣味は旅行で、全ての都道府県に宿泊しました。史跡・名勝もさることながら、市場や街中を歩いたり、温泉に浸かったり、ご当地のグルメや地酒を楽しんだりしています。最近は焼き物に興味をもって小さな器を猪口つと集めています。昨年は有田、伊万里、波佐見、唐津を回ってきましたし、今年は日本六古窯(信楽、越前、丹波立杭、備前、瀬戸、常滑)の瀬戸、備前、丹波立杭を回っています。加賀温泉行では古九谷に出会い、箱根では美術館でたくさんの焼き物に出会いました。旅は思わぬ出会いがあって楽しいです。



- ①山成 昭世 (准教授) **新任**  
②美術教育、彫塑  
③教科教育(図画工作) 子どもと図画工作、子どもと表現  
④日常生活の中で美しいものや胸躍ることがキャッチできるようにアンテナを張り巡らし暮らすように心がけています。毎日の服装の色、生活空間にある物の形、四季の移ろいを感じる皮膚感覚。感性豊かに生きることは人生必須のビタミン剤だと思います。感じる心を育むために造形教育は一つだと思いますが、自分自身を振り返ると周りに褒めてくれたり、気づかせてくれたり、共感してくれる大人がたくさんいました。幼い頃から絵に表したり、形に表したりすることが大好で、得意なことを仕事にできたことは幸せです。



- ①川副 知佐 (講師)  
②幼児教育、保育学  
③幼児理解論、保育内容総論など幼保実習関係科目  
④卒業生が元気な姿を見せることに嬉しさを味わう5年目になりました。子どもと関わる仕事の楽しさと厳しさが学生の皆さん方に伝わるといいと思っています。社会の変化により幼児教育が大きく変わっていくこうとする時期、「子どもの育ち」を様々な側面からみていく必要性と幼児教育のこれからの「可能性」に興味があります。子どもは「今を存分に生き、未来へと繋ぐ力を持つ存在であること」を改めて感じています。



- ①竹澤 賢樹 (講師)  
②子ども家庭福祉、スクールソーシャルワーク、社会的養護  
③子ども福祉学概論、社会福祉援助技術演習、スクールソーシャルワーク論  
④福井県永平寺町出身のアラフィフ(1969年生)教員です。最近、朝ドラやAMラジオを楽しむことができるようになってきており、嗜好の変化を緩やかに感じております。また休日の楽しみとして、今年は、古くからの友人に会いに東へ西へと向かい、ご当地の名産を食す旅を楽しんでいます。学内では、ダンスサークルの顧問としても活動しておりますので、学生共々よろしく願いいたします。



- ①重森 恵津子 (課長)  
②教務部 実習・実践支援課  
③教員免許や福祉資格等を取得するための学校や福祉現場等での実習に、学生の皆さんが主体的に取り組むことができるように、支援していくことが主な業務です。また、課名は、実習・実践支援課となっているように、皆さんの実践を支援、応援してまいります。  
④自分の周りの「どうしたらよいか迷っている人」「どのように進めたらよいか困っている人」が気軽に相談してみようと思っていただけるように…ということを常に心掛けていたいと思います。「目くばり」「手くばり」「心くばり」をモットーとして頑張っていきたいと思いますので、皆さん、気軽に声をかけてください。



- ①森田 恭司 (課長補佐)  
②学生部 進路・就職支援課  
③進路・就職支援  
④私は、県立高等学校で理科(化学)の教員として教鞭をとり、教育委員会(研修・人事・学校再編等の関係)に奉職した後、再び高等学校で学校の運営及び経営に携わってきました。高等学校と大学では校種が異なるとともに求められる役割も大きく異なりますが、再び、若い人たちの学び・成長の場に携わることができることを嬉しく思っております。今まで高等学校で生徒の希望進路実現を目指して長年進路指導に取り組みできた経験を活かし気持ちを新たにして、今度は学生の希望進路や就職の実現に向け頑張る所存ですのでどうぞよろしくお願いいたします。





教育福祉学部スポーツ教育学科 ●教員…①氏名・職名 ②研究分野 ③主な担当科目 ④自己PR  
●新規職員…①氏名・職名 ②所属部課 ③主な担当業務 ④自己PR

- ①村山 勤治 (学科長・教授)  
②体育学、武道論、剣道  
③武道論、スポーツコーチング論、剣道  
④スポーツに興味関心を持っている学生に対して、日本の伝統文化である武道の素晴らしさ、スポーツをささえたり教えたりできる楽しさ等を理解してもらえる教材研究や教育活動を通して、健全な心と身体を兼ね備え、これからの厳しい社会環境の中で、教育、福祉に貢献できる人材の育成に尽力したいと思います。また、向上心を持って、勉学にスポーツに全力で取り組んで欲しいと思っています。



- ①稲岡 純史 (教授)  
②バイオメカニクス、動作解析  
③スポーツバイオメカニクス・スポーツ科学入門  
④スポーツ教育学科の自然科学領域の講義・及びゼミを担当し、同時に、陸上競技部の部長・監督として、学生の競技的な指導に当たっています。ゼミでは、測定器材を駆使して動作解析を行い、一定の動きを客観的なデータで評価する活動を主にしています。学生自身が、科学的な裏付けをもってスポーツ活動を捉え、評価・指導するための基礎知識を学び、将来の職場でこの経験が生かされ、何らかの形で社会貢献に繋がればと思っています。また、陸上競技部に所属する学生の競技成績も、年々高度化して全国に名を馳せるまでになりました。楽しみです。



- ①黒田 吉孝 (教授)  
②知的な遅れや自閉症等の発達障害の心理学  
③発達障害と教育課程、知的障害者の心理、特別支援教育総論  
④本学は、教育と福祉の看板をあげているので、まず、教育と福祉をしっかり学び、その学びに自信をもった学生を育てること、例えば、教育と福祉の専門領域を仕事として選択しなくても、そのマインドを身につけて自分の特性としていかしていく学生を育てることが大切と考えます。大学の社会貢献も他大学と異なる特色をもち、他大学と連携し、本学ならでの地域貢献を目指して欲しいと思います。



- ①藤井 茂樹 (教授)  
②特別支援教育  
③特別支援教育論、言語療法、発達障害と教育課程  
④特別支援教育が完全実施され、10年が経過しようとしています。障害のある人も障害のない人も共に生きる「共生社会」をめざし、教育現場でできることを先生方と共に取り組んでいきたいと思っています。特に、発達障害のある人のライフステージに応じた支援と就労支援の在り方についてです。



- ①鈴木 敦史 (准教授)  
②日本教育史、日本思想史  
③教育学概論、教職概論、道德教育指導論他  
④本学に着任してから、今年度で7年目になります。周囲の先生方や職員のみならず、そして学生の皆さんに温かく接していただき、毎日楽しく過ごしています。仕事以外では、食べ物のことを考えている時と、子どもの寝顔を見ている時、紹介した食べ物の店を褒めてもらった時に、特に幸せを感じます。未熟な点が多い私ですが、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



- ①後藤 真吾 (講師)  
②特別支援教育、ことばときこえ、臨床発達心理学  
③特別支援教育  
④療育教室や保育園、幼稚園の先生方、他の専門職の先生方と、ちょっと気になる子どもたちについての研究会を定期的・継続的にを行っています。また、言語聴覚士として滋賀言語聴覚士会のネットワークを利用した“ことばときこえ”に関する相談も行っています。



- ①祐末 ひとみ (講師) **【新任】**  
②スポーツマネジメント、スポーツ政策  
③地域スポーツ実践論、地域スポーツ計画論、スポーツ文化論、ボランティア論  
④昨年度まで地域のスポーツクラブを作る専門職に就いていました。地域には学生を求める場、学生が学べる場が沢山あります。地域と学生が相互に学び、支え合える仕組みを少しずつ作り上げればと考えています。宜しくお願い致します。



- ①竹内 早耶香 (講師)  
②スポーツ心理学、メンタルトレーニング、水泳  
③スポーツ心理学、メンタルトレーニング論、水泳  
④スポーツにおけることばからだのつながりに関心があり、スポーツに関わる方々の心理サポート(主にメンタルトレーニング)について実践・研究しています。主に、青年期(高校生、大学生)アスリートのサポートを行っています。



- ①川口 諒 (助教) **【新任】**  
②体育科教育学、教師教育学、サッカー  
③中等教科教育法保健体育Ⅰ・Ⅲ、サッカーA・B  
④今年度から大学教員としての一歩を踏み出しました。昨年度までは大学院生の傍ら、中学校や高等学校で保健体育の非常勤講師として授業を行っていました。まだまだ経験は少ないですが、私の研究分野である、どのようにして体育授業を行っていくか、どのように良い教師として成長していくのかというテーマについて学生や学校現場、地域の皆様と一緒に考えていけたらいいと思っています。また、2019年度からサッカー部が創設され、コーチングスタッフとして携わる予定です。この両面から大学や地域を盛り上げていきたいと思っています。



- ①沢 庄一郎 (図書館司書)  
②図書課  
③カウンター業務  
④大学の支援部局であります図書館に昨年四月から勤務しています。図書館は知識の宝庫です。図書館資料は人類の共有財産であり、自由な精神で知的好奇心をもって利用する所が図書館です。大学の教育研究と図書館は連携し成果は図書館の蔵書構成に反映されています。大学図書館間の協力や公共図書館との共生等ネットワークが構築され相互に補完関係をもっています。現代は学び続けることが求められています。本との出会いは人生を豊かにします。学生さんには図書館を日課として利用され生涯にわたり図書館が身近な存在になることを希望します。大学はすばらしい職場であり再び大学で働けることを感謝しています。



短期大学部 ライフデザイン学科 ●①氏名・職名 ②研究分野 ③主な担当科目 ④自己PR

- ①丸山 俊明 (学科長・教授)  
②日本史、日本都市史、日本建築史  
③地域政策入門、くらしと防災、住居学概論・演習  
④本年度から短期大学部ライフデザイン学科の学科長を拝命いたしました丸山俊明です。3コースの学生ニーズにこたえる運営をこころがけながら、キャリアデザインコース教授として学生指導にあたり、成果として昨年のCOC+アイデアコンテストのグランプリ県知事賞に続き今年も1年生が準グランプリ滋賀中央信用金庫理事長賞を受賞いたしました。研究成果では、今年5月に『京(みやこ)のまちなみ史〜平安京への道・京都のあゆみ〜』を出版することができ、伝統建築・消防・治安の観点から複合的にとらえた他にない研究成果を、多くの講義に反映させたいと考えております。これからも本学の発展に寄与すべくがんばりますので、みなさまにはご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



- ①長嶺 共全 (教授)  
②物理学・情報学  
③パソコン活用Ⅰ・Ⅱ、情報処理論  
④現在、世の中に存在する複雑な形状やランダムな数値データなどに潜在する統計的特徴を見出す研究に従事しております。最近では、日本に数多くある苗字が作り出す様々な分布などに興味があり、研究対象としております。また、今流行りの人工知能(AI)にも興味を持ち始めています。



- ①松本 行弘 (教授)  
②臨床心理学、心理臨床学  
③臨床心理学、発達心理学、精神保健学、認知症の理解Ⅰなど  
④宮崎駿のアニメーションに関心があり、現在、国際アンデルセン賞を受賞した角野栄子原作の『魔女の宅急便』を分析研究しています。一方、臨床実践では引きこもり相談や思春期相談など、カウンセリングや相談活動を行っています。また、支援者・援助者の育成、スーパービジョンやコンサルテーションなど地域援助に係わっています。授業では、DVDなどを使って映画や芸能など(映像)表現を分析することで、人に対する新しい視点を提示し幅広い人間形成に役立つことを目指しています。



- ①榎本 恵理 (准教授)  
②教育史、国語教育、教育思想、幼児教育  
③教育原理、保育・教職論、教科教育法国語、特別活動論など  
④人間関係が昔と比べ希薄になっていることから、人と人がどのようにつながりあえるかを江戸時代の教育(特に本居宣長)に焦点をあてて研究をして参りました。近年は、声に注目し、幼児期からの言葉の教育をどのようにしていくのが望ましいかを伝承遊びなどを素材に研究を進めています。AI化が進む世の中ですが、コミュニケーションをとりながら意思疎通をはかり、暮らしやすい世の中になるよう願っています。よろしくお願い致します。



- ①山 和美 (准教授)  
②社会福祉学、介護福祉学  
③「生活支援技術演習」「介護過程」「介護総合演習」「訪問介護・介護施設実習」等  
④今年も学生と共に地域の活動に参加したいと思っています。特にゼミの学生数人は、実習を縁に「子ども食堂」への参加をしています。実施主体は特別養護老人ホームと養護老人ホームで、お年寄り子ども達が一緒にゲームをしたり、晩御飯を食べたりしています。先日はゼミの学生が、子ども達に手洗いの方法を教えていました。インフルエンザがそろそろ流行する時期なので手洗い・うがいをしっかり行い感染症の予防をしたいと思います。



- ①杉本 栄子 (講師)  
②保育、幼児教育  
③保育原理総論、子どもと言葉、幼児造形、幼児コミュニケーション研究他  
④授業の中で、乳幼児期の子どもたちに親しまれる手遊び・絵描き歌・パネルシアター・絵手紙制作・絵本の読み語り等に取り組んでいます。その実践の場として、学生とともに東近江市の子育て支援センターに出向し、未就園の親子と一緒に楽しいひとときを過ごしています。今後も保育研究を深め、保育者養成に励んでまいります。



- ①高橋 容子 (講師)  
②幼児教育全般、人間関係、幼児造形  
③子どもと人間関係、子ども遊び、保育教育課程論、幼児造形、PBL演習  
④●好きな言葉：「苦あれば楽あり」毎日の生活や職場で様々な出来事に出くわしますが、大変な跡には必ず嬉しい出来事に繋がっていくと信じ、「今日も有難う」の気持ちをもって、明日を迎えることにしています。多くの人やものと関わり自分らしい人生を送らせてもらう中で、常に笑顔と温かい言葉かけで接し、人との繋がりを積み重ね今後も自分磨きに努めていきます。  
●好きな花：春⇒人の出会いと愛らしさを感じるチューリップ/夏⇒ギラギラ太陽に向かう情熱のヒマワリ/秋⇒風に揺られてなびき、優しさが伝わるコスモス/冬⇒香りがよく心地よさが伝えてくれるスイセン。一輪の花は人の心を和ませ癒してくれます。



- ①竹下 則子 (講師) **【新任】**  
②音楽教育、音楽療法、リトミック  
③教科教育法音楽、保育内容表現音楽、幼児音楽、ピアノ講座  
④小学校で教鞭をとりながら、子育て支援センター、保育施設、医療施設、社会福祉施設、刑務所、拘留所、カンボジアの孤児院などで、演奏活動や音楽療法的活動を行ってまいりました。多くの音楽を通して多くの人々と出会い、世界中のどのような環境にあっても、どのような人に対しても音楽は平等にあたえられていることを学びました。時に音楽は心を励まし、癒し、潤し、喜びや楽しさなどを与えてくれます。これからも様々な音楽を研究し、音楽を通して皆様のお役にたてるよう努力していきたいと考えています。



- ①山ノ井 勉 (講師)  
②社会福祉学、介護福祉学  
③介護の基本、介護過程ほか  
④いつもお世話になっております。専門領域は「社会福祉学」「介護福祉学」です。主に介護福祉コースを中心に短期大学部の授業を担当しています。介護福祉は現代社会の課題である「老後の幸せ」や「自分らしさ」を探究する専門領域です。僕も慌ただしい日々の中で学生とともに成長できるよう「自分らしさ」を探究していきたいと思っています。また、時間がある時などは地域の卓球クラブで中学生とボールを打ったり、ジョギングなどをして楽しんでいます。



- ①吉原 真紀 (講師)  
②介護福祉・看護  
③医療的ケアⅠ・Ⅱ、こころからだのしくみの基礎b・理解b、障害の理解Ⅱ、介護の基本Ⅲなど  
④今年度は介護福祉コースの学生から希望者をつくり、アロマテラピー講座を開講しました。受講生はアロマテラピー1級検定の合格をめざしました。卒業後はアロマを活用したケアで利用者さんの癒しとなれるようにと願っています。皆さまも生活の中にアロマテラピーを取り入れてみませんか。





## 研究室訪問（山成ゼミ）

びわこ学院大学に勤務し半年経ちました。新しい学校で何もわからない私に、いろいろ教えてくれたのがゼミ生でした。3年生のゼミでは地域と連携した取り組み、東近江のひばり公園で開催された「コトナリエ」の造形ワークショップの企画・運営に携わりました。東近江地区の土地勘の全くない私に資材の購入や運搬を気軽に担ってくれて本当に助かりました。2018年の夏は猛暑と大雨でワーク



コトナリエ夜景

ショップの企画・運営・展示は想像以上に変でしたが皆黙々と作業に積極的に取り組んでくれました。また、ゼミ生は同大学の友人に声掛けをして仲間を集めゼミの枠を外した活

動となりました。小学校の教員をしている卒業生もワークショップに担当クラスの作品を展示し、びわこ学院大学のつながりの強さを感じました。

3年生のゼミ生は男子2名、女子3名。元気な女子パワーに男子学生は押され気味ですが優しい性格の2人がムードメーカーとなり穏やかなゼミの雰囲気です。秋学期からは卒業制作に向けて美術館等に出かけ自分の表現したい作品の構想に入る予定です。卒業制作でどのような作品が制作されるのか楽しみです。



ゼミ風景

## 著書紹介

『京（みやこ）のまちなみ史～平安京への道・京都のあゆみ～』



2018年12月13日(木)  
『中日新聞』

短期大学部ライフデザイン学科 教授 丸山 俊明（単著）

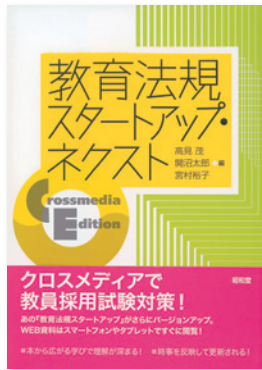
本書は2018年5月10日、学術出版昭和堂様から定価2300円で出版させていただきました。私の単著として4冊めで、これまでの3冊を集大成しています。全100項のうち、前半50項では、大陸の都市を模範にした藤原京など日本の都市が完成形としての平安京にいたるまでの歴史を、後半50項では、平安京がうつりかわり現代京都にいたるまでの歴史を、豊富な図版と写真と共に紹介しています。100項目のどこか

ら読み始めても大丈夫な構成で、歴史好きの方はもちろん、あまりという方も、一度お目通しいただければ京都通（ひょっとすると研究者以上に）になること請け合いです。なぜ町家はたちが低いのか、むしろ窓はなぜ生まれたのか、何がウダツなのかなど、伝統的なまちなみや町家、さらに火消や木戸門に興味がある方にもおすすめの一冊です。すでに『中日新聞』等に取りあげられ、滋賀県各地の図書館（東近江、近江八幡、野洲、彦根などの市立図書館や草津の県立図書館）にも入っていますので、興味がある方はぜひお手にとってみてください。



『教育法規スタートアップ・ネクスト：Crossmedia Edition』

教育福祉学部 こども学科 講師 渡辺 雅幸（部分執筆）



本書は、教員採用試験にも必ず出題される「教育法規」を、最新の法改正や関連政策もふまえて、やさしく丁寧に解説したものである。本書の内容の特色は「はしがき」にも触れられているが、第一に、「初学者」にとって「使える」テキストになっている点である。すなわち、教育法規を初めて学ぶ人のために、条文の解説や教育政

策の動向、政策文書の内容に即した重要項目が厳選され、わかりやすく説明がなされている。第二に、「TOPIC」のコーナーを設けている点である。本学からは筆者と白銀研五先生がこの「TOPIC」の執筆に参加させていただいたが、教育法規そのものだけでなく、教育学全般に関する重要なキーワード（「インクルーシブ教育における「合理的配慮」とは」や「私立学校は「公教育」か」、など）の解説もとても充実している。本書が一人でも多くの学生の目に触れ、教員採用試験の合格に少しでも役立っていただければ幸いです。



## 『科学研究費補助金』の獲得

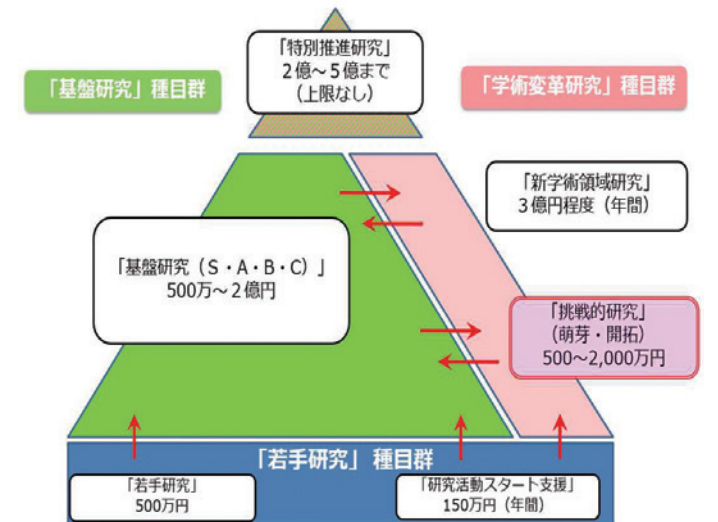
「科研費」とは「科学研究費補助金」の略で、人文学、社会科学から自然科学まで全ての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる「学術研究」（研究者の自由な発想に基づく研究）を格段に発展させることを目的とする「競争的研究資金」です。審査はピアレビュー（※）による評価を経て、独創的・先駆的な研究に対して行われます。

平成30年度、本学では研究代表者として2名、研究分担者として3名の教員が助成を受け、研究活動を行っています。

※ピアレビューとは同業者（peer）が審査すること（review）で、科研費においては、学術研究の場で切磋琢磨し「知の創造」の最前線を知る研究者が審査、評価をすることです。

## 外部連携研究支援課

科研費の各研究種目の役割及び全体構成等（文部科学省HPより）



## 『研究紀要』の発行

本学の定期刊行物の一つに、毎年、年度末（3月）に発行し、全国の関係先（大学、研究所、図書館等）にお配りしている【研究紀要】という学術雑誌があります。

ところで皆さんは【紀要】という言葉をご存知でしょうか？

多分、普段あまり聞きなれない言葉ではないかと思いますが『ウィキペディア』には次のように記されており、

### 【紀要】

紀要（きよう、英：bulletin, memoirs）は、大学（短期大学を含む）などの教育機関や各種の研究所・博物館などが定期的に発行する学術雑誌のことである。

本学の場合、専任教員が〔びわこ学院大学・びわこ学院大学短期大学部 研究紀要 編集・発行要項〕および〔投稿の手引き〕に沿って執筆した

- ① 研究論文（専門分野等における研究成果の公表）
- ② 研究ノート（諸事例等に関する研究結果の報告）
- ③ その他（芸術系分野における創作品の発表等）

を掲載しています。

今年度も、間もなく「第10号」が発行となりますが、創刊号以来すべて図書館に揃っておりますので、興味・関心を持っていただいた方は、ぜひ一度ご覧ください。



## 『タッチパネル式券売機』の導入

学生の皆様が、証明書の発行やスクールバス定期券等の申し込みの際に現金の授受をスムーズに行うため、本館1F事務室前に高額紙幣対応のタッチパネル式券売機を設置しました。以前は学生の皆様が窓口で現金と申込書を事務職員に渡し申し込みをしていましたが、本機を導入した結果、証明書等交付願に証紙を貼付し、申し込みをしていただくことになりました。証明書発行の他、スクールバス定期券・回数券、自動車通学登録料や試験料等の現金の授受が必要なことに利用ができます。また領収証の発券も同時に行えるためよりスムーズに購入手続きができます。

今後とも、学生の皆様がより良い大学生活を送ることができるよう検討していきます。



## 総務課



# びわ学NEWS!

スポーツ情報誌も注目!!



イベント内容 (予定)

- ☐ 大学短大概要説明
- ☐ 体験授業
- ☐ 学生生活紹介
- ☐ キャンパスツアー
- ☐ 保護者向け説明
- ☐ 個別相談

サ  
ク  
ラ  
サ  
ク

## びわこ学院大学生が教員採用試験で大健闘!

今年度の教員採用試験では、スポーツ教育学科の2期生が中学校教諭(保健体育)および、特別支援学校教諭の採用試験を受験し、見事難関試験を突破!それぞれの教員第1号が誕生しました。毎年多数の合格者を輩出している子ども学科では、小学校教諭、養護教諭の採用試験に、県内外で多数合格するなど健闘してくれました。また、幼稚園教諭・保育士の採用試験も、公立・私立ともに多数合格し、喜びの声で溢れています。

### 2019 年度公立学校・公立園採用試験結果

【現役生のみ】

合格者 受験者

|             |     |      |
|-------------|-----|------|
| 小学校教諭       | 10名 | 14名中 |
| 養護教諭        | 3名  | 5名中  |
| 中学校教諭(保健体育) | 1名  | 1名中  |
| 特別支援学校教諭    | 1名  | 2名中  |
| 幼稚園教諭・保育士   | 10名 | 16名中 |

—— 教育福祉学部 入学定員 ——

子ども学科 [80名] スポーツ教育学科 [40名]

## 大学をもっと近くに

びわこ学院大学は、SNSを利用し、多くの情報を学内外へと発信し「開かれた大学」をめざします。

SNSで大学を知る



動画で大学を観る



小さな大学で 大きく学ぶ



**びわこ学院大学**  
**びわこ学院大学** 短期大学部

〒527-8533 滋賀県東近江市布施町 29  
TEL 0748-22-3388 (代表)